

氏 名	光 吉 五 郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4141 号
学位授与の日付	平成18年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Accurate Diagnosis of Musculoskeletal Lesions by Core Needle Biopsy (経皮的針生検を用いた骨軟部病変の正確な診断について)
論文審査委員	教授 松川 昭博 教授 大塚 愛二 助教授 西田 圭一郎

学位論文内容の要旨

腫瘍の治療において、経皮的針生検は切開生検と比較して多くの利点を持っている。しかし、骨軟部病変の診断における経皮的針生検の正診度は未だ確立されていない。我々は骨軟部病変の診断におけるその手法の精度と限界について評価した。1990年から2004年の期間で、骨軟部病変に対して経皮的針生検を施行した163例（男性93名、女性は70名）を対象とした。骨病変に対してはJamshidi 針とOstycut 針を、軟部病変に対してはTru-cut 針を使用した。針生検による診断は、切開生検又は手術所見による最終診断と比較検討した。組織学的診断に十分な検体が症例の88%で獲得できた。そのうち97%で良悪性の鑑別ができ、88%で確定診断できた。悪性病変の診断においては、敏感度は100%、特異度は90%だった。骨軟部病変全体の正診率は77%だった。骨軟部病変の診断における経皮的針生検は、安全で精度の高い診断手法の1つである。

論文審査結果の要旨

光吉五郎氏は、骨軟部腫瘍診断における経皮的針生検の正診度を検討した。用いた症例は自験例163例で、切開生検または術後検体による最終診断と比較検討した。その結果、143例（88%）で適切な検体が得られ、126例（88%）で正しい診断が得られた。悪性病変の診断での敏感度は100%、特異度は90%で、骨軟部病変全体の正診率は77%であった。合併症は1例（血腫）のみであった。以上より、骨軟部病変の診断における経皮的針生検は、安全で精度の高い診断手法であることを確認した。

しかし、20例（12%）で適切な検体が採取されず、17例（12%）では採取された検体で正しい病理診断が得られず、この点について審査委員から質問がなされた。前者については、骨嚢腫などサンプリングが難しい症例が存在すること、後者では、病変部が不均一である場合、採取検体が病変の全体像を反映していないことが原因とのコメントがあった。論文作成にあたっての注意点や、この結果をどのように踏まえ今後の診断方針に役立てるかといった質問、画像診断との比較検討などについての質問があった。一部、答えに窮するところもあったが、問題点と今後の指針は理解している。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。